

## 24 手織り・トールペイント訓練修了者の自営状況

国立別府重度障害者センター 指導課 浦田 真由美

### 1 はじめに

当センターの職能訓練は自立訓練の一環として利用者全員を対象に実施し、各種技能提供だけでなく就労に関する支援も行っている。平成9年から平成20年10月までの11年間で、手織り及びトールペイント訓練を実施した者は127名、その内53名はセンター離所後も創作活動を継続している。自営希望者に対するこれまでの支援状況と今後の課題を報告する。

### 2 修了後の継続状況

修了後の継続形態は3つのケースに分かれており、①趣味・生きがいとしての創作活動を行っている者46%、②商品制作は可能だが販売支援を必要とする者43%、③自営活動を完全に自立して行っている者11%という状況である。②、③に該当する修了生16名を対象に平成19年度から20年度にわたり「グリーンコープ生協」にて委託販売を行い、受注作業から検品・納品までを支援し自営活動の充実を目指した。毎月1回、合計10回の取り引きでは平均120,000円前後の納品を行うと同時に、販売担当者より頸髄損傷者が制作した商品を販売するために必要なアドバイスを受けた。その結果、商品価値を高めるために制作者の障害状況や制作過程等の付加価値をつけ、販売店の客層に合わせた値ごろ商品の開発を行うなどの必要性を認識した。また、統一されたデザインの商品も加えることで安定した商品作りに繋げることが出来た。

### 3 自営活動支援の今後の課題

「グリーンコープ生協」での委託販売も含め、修了後の継続状況から見えてきた問題点がある。個人での自営活動では行動範囲等の制限から閉鎖的になり制作意欲の低下につながってしまうことがあり、その結果、収入を得る気持ちが薄らいでくる。販売や作品展を想定したカリキュラムを実施しているが、実際、外部へアプローチを行うのは作者本人の自主性に任せている。この問題を解決するためのステップとして、web上での販売を試行的に実施している。地元での販路に限界がある者に対して市場を広げることができ、納品や検品等の確認が合理的になると予想する。しかし、商品購入者へ直接商品が届くシステムであるため、商品制作以外の作業も必要となる。商品受注から納品までの一連の流れの中でミスを起こさないようにするため、パターン化した処理を訓練中より実施する必要がある。

### 4 おわりに

以上のことから修了後も手織り・トールペイントを継続希望する者に対するカリキュラムの充実と共に、地域の中でも活動できるネットワークの整備が必要と考える。そのため、引き続き在所中より担当ケースワーカーと連携をとり、地元への移行をスムーズに行う働きかけを行っていきたいと考える。